

# 阪神大震災から29年で中関小

## 地震想定での避難訓練

阪神大震災から29年を迎えた17日、中関小で大地震を想定した避難訓練があった。1日に能登半島地震が起きたばかりということもあり、交流学習で訪れた向島小の26人を含む約700人の児童たちが、真剣な表情でいざというときの対処法を学んだ。

訓練で、授業中に緊急地震速報が流れると、1年2組の児童たちは放送の指示に従って赤白帽をかぶって机の下に避難。揺れが収まり、校内の安全や津波がないことが確認できたとして、担任教師の誘導で校庭へ逃げた。

児童たちは、事前に避

難時の心得として押さない▽走らない▽しゃべらない▽戻らないの「おはしも」を学んでいた。児童たちは慌てることなく、静かに歩いて移動し、教員たちは、逃げ遅れがないかなどを確認し、約5分で避難を完了させた。

校庭に集まった児童た

を守るために全力を尽くしている人たちにも感謝をして」と、児童たちに話した。

5年高田唯衣さん(11)は「能登半島地震は、あんなに大きな被害になるとは思わなかった。災害が起きたときに、すぐに



緊急地震速報を受けて、机の下に避難する1年の児童たち

ちは、能登半島地震などの犠牲者に黙とう。亀田浩太郎校長は「災害はいつ、どこで起こるか分からない。学校以外で起こることの方が多い。命は一つ。大切な家族や友達を守るため、どこへ逃げるかなどを家族で話し合ったり、訓練したりしてほしい」と呼び掛けた。この日は当初、昨年が続いて陸上自衛隊防府分屯地や防府市消防本部などの協力で、災害救助のデモンストラーションも実施される予定だったが、能登半島地震や13日に広島県江田島市で発生した山林火災に自衛隊が対応するため中止になった。亀田校長は「命

逃げられるよう避難場所の確認などをもう一度、家族と話した。(吉野敦裕)

「避難訓練」令和6年1月20日 ほうふ日報